

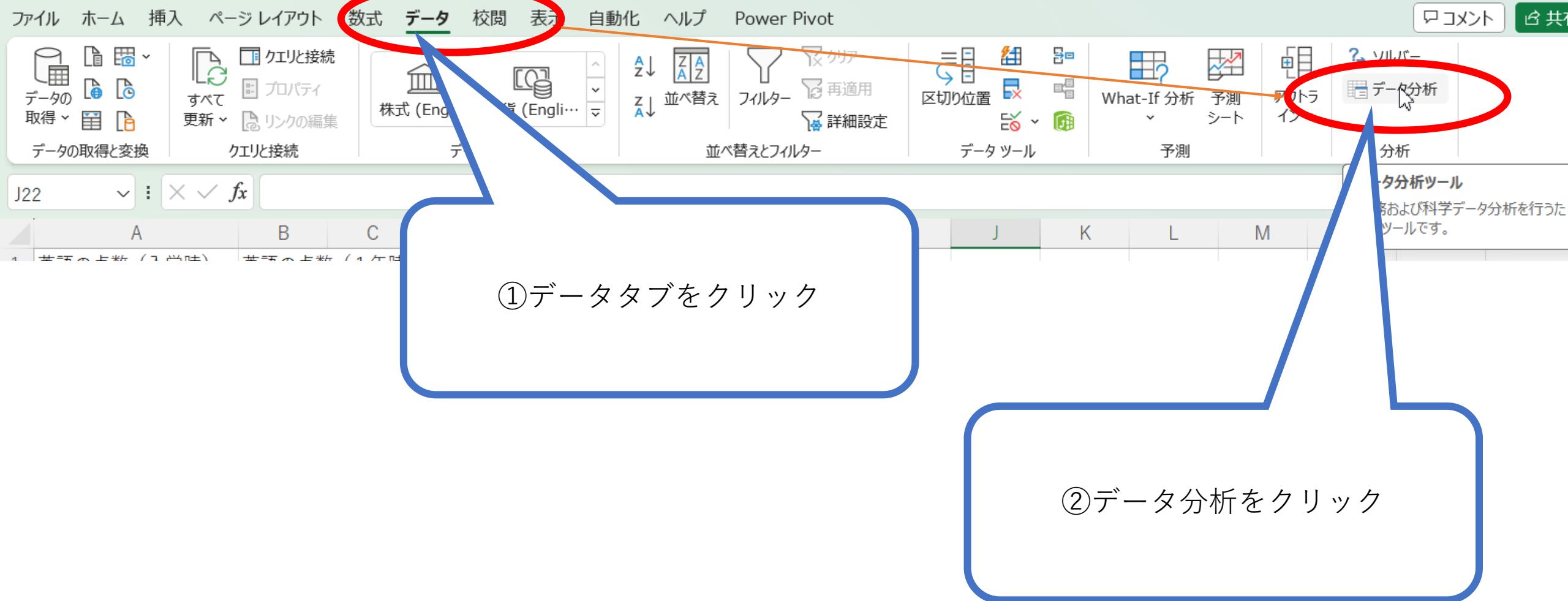
# Excel解説8.4

## 分析ツールによる平均の差の検定 (等分散を仮定しない場合)

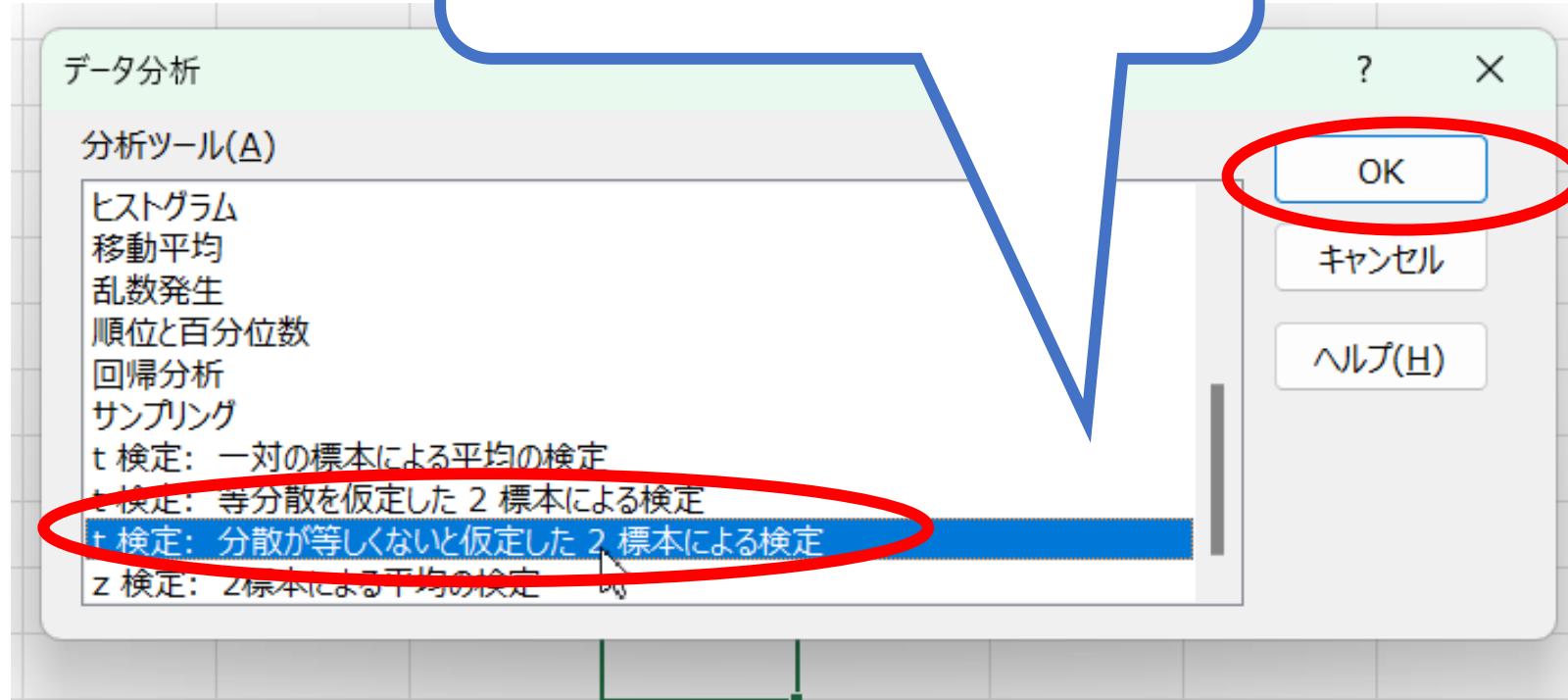
データファイル 英語の点数50

	A	B	C	D	E
1	英語の点数（入学時）	英語の点数（1年時）			
2		26	39		
3		19	26		
4		28	42		
5		44	42		
6		22	32		
7		30	46		
8		20	36		
9		40	48		
10		35	49		
11		21	28		
12		30	42		
13		48	47		
14		37	44		
15		37	40		
16		30	32		
17		34	45		
18		15	27		
19		24	42		
20		37	42		
21		29	41		
22		44	51		
23		39	52		

データを開く



下のほうにある、「t検定：分散が等しくないと仮定した2標本による検定」をマウスでクリックし、OK





①クリック

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
(入学時)	英語の点数 (1年時)											
26	39											
19	26											
28	42											
44	42											
22	32											
30	46											
20	36											
40	48											
35	49											

t 検定: 分散が等しくないと仮定した 2 標本による検定

\$B\$1:\$B\$51

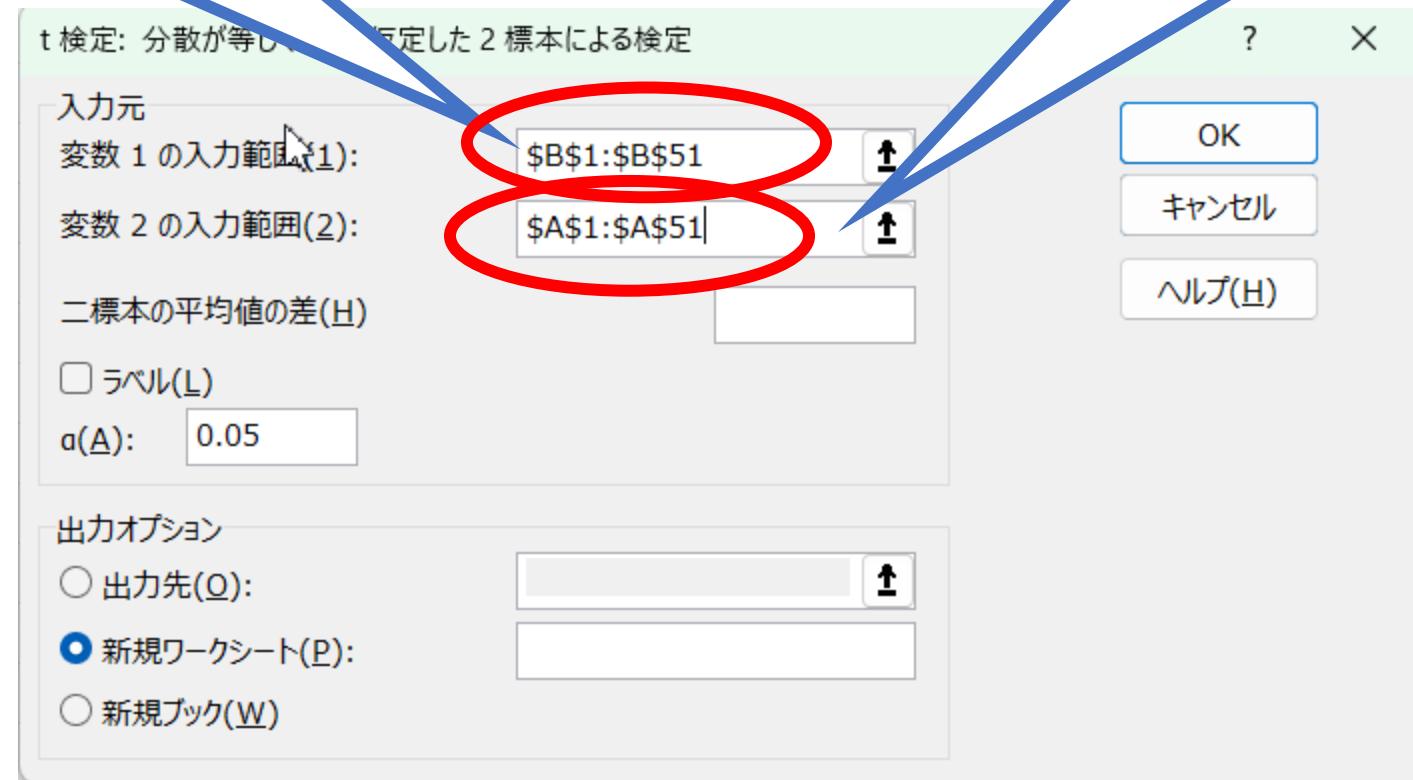
? X



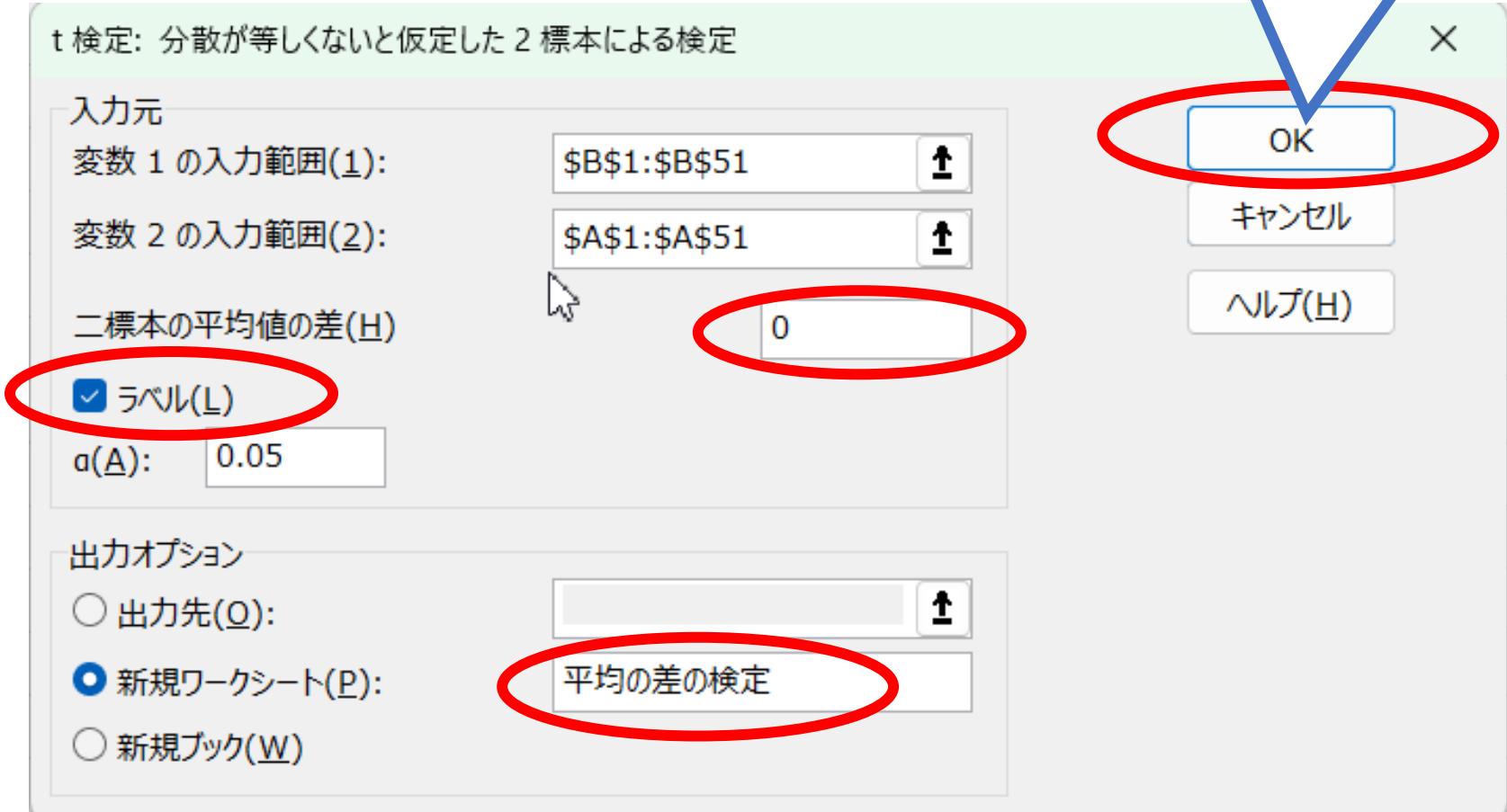
②マウスで1年時のデータをドラッグしたらクリック

1年次の英語の点数を入力

入学時の英語の点数を入力



設定ができたらOKをクリック



	A	B	C	D
1	t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定			
2				
3		英語の点数（1年時）	英語の点数（入学時）	
4	平均	41	31.84	
5	分散	58.32653061	79.07591837	
6	観測数	50	50	
7	仮説平均との差異	0		
8	自由度	96		
9	t	5.525648299		
10	P(T<=t) 片側	1.40493E-07		
11	t 境界値 片側	1.66088144		
12	P(T<=t) 両側	2.80985E-07		
13	t 境界値 両側	1.984984312		
14				
15				